

令和4年度 学校経営計画に対する自己評価計画書

石川県立門前高等学校

重点目標 1 県や市、地区の事業を活用した探究活動や課外活動を軸として学校全体の活性化を図り、魅力ある学校づくりを推進する。

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	
・探究活動の充実	・教員による「学校評価アンケート」の結果に基づく探究活動の指導力の改善	教務課	・地域の輪島市、門前町商店街、関係機関等と連携して、地域活性化に繋がる取組や物品等を具体的に創出する探究活動を行うことで、地域貢献の在り方を身につける必要がある。	【成果指標】（教員） 「地域貢献の在り方を指導するために門前地域の伝統・文化、自然環境、社会環境等を考える場면을創出している」	「門前地域を考える場면을創出している」と評価した教員の割合（①+②）が A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満	① 行っている ② 概ね行っている ③ 余り行っていない ④ 全く行っていない	教員対象調査 (7, 1月)
	・生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づく探究活動の実践力の改善			【成果指標】（生徒） 「地域活性化の在り方を身につける方法を学ぶことができた」	「地域活性化の在り方を身につける方法を学ぶことができた」と評価した生徒の割合（①+②）が A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満	① できた ② 概ねできた ③ 余りできなかった ④ 全くできなかった	生徒対象調査 (7, 1月)
・魅力ある学校づくりの推進	・教員による「学校評価アンケート」の結果に基づく魅力ある学校づくりの改善	教務課	・小規模校であるためのきめ細やかな指導、保護者・地域の関係者の教育活動に対する熱心な支援等を活かし、保護者・地域の関係者の協力のもと、主に地域貢献の学びを通して、地域活性化に必要な創造力・企画力・情報発信力を育成する必要がある。	【成果指標】（教員） 「教科や総合的な探究の時間・部活動等の専門性を活かし、地域活性化に必要な創造力・企画力・情報発信力を高める指導をしている」	「教科や総合的な探究の時間・部活動等の専門性を活かし、地域活性化に必要な創造力・企画力・情報発信力を高める指導をしている」と評価した教員の割合（①+②）が A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満	① 指導している ② 概ね指導している ③ 余り指導していない ④ 全く指導していない	教員対象調査 (7, 1月)
	・生徒・保護者・地域の関係者による「アンケート」の結果に基づく魅力ある学校づくりの改善			【成果指標】（生徒・保護者・地域の関係者） 「地域活性化に必要な創造力・企画力・情報発信力が身につく教育活動が実施されている」	「地域活性化に必要な創造力・企画力・情報発信力が身につく教育活動が実施されている」と評価した生徒・保護者・地域の関係者の割合（①+②）が A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満	① 実施されている ② 概ね実施されている ③ 余り実施されていない ④ 全く実施されていない	生徒・保護者・地域の関係者対象調査 (7, 1月)
・ボランティア活動による地域・他者貢献意識の高揚	・総持寺参道清掃 ・海岸清掃 ・暑中見舞い、年賀状作成、等	生徒会 総務課	・学校・部活動単位での奉仕活動に年数回以上参加している。この奉仕活動を通して、何らかの助けを求めている人や地域のために、自主的な意志でボランティア活動に取り組む精神を涵養する。	【成果指標】（生徒） 「自主的な意志でボランティア活動に取り組むことで、自分が成長した」	「自主的な意志でボランティア活動に取り組むことで、自分が成長した」と感じた生徒の割合（①+②）が A 85%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満	① できた ② だいたいできた ③ 余りできていない ④ 全くできていない	生徒対象調査 (7, 1月)
	・各種地域行事への参加			総務課	・過疎化が進み、独居老人が増えている。お年寄りの方々が参加する各種地域のイベントに積極的に協力することで、他者や地域貢献の精神を涵養する。	【満足度指標】（生徒） 「イベントの協力を通して、他者や地域への貢献の意義を理解できた」	「イベントの協力を通して、他者や地域への貢献の意義を理解できた」と答えた生徒の割合（①+②）が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満

重点目標2 一人一台端末を使った授業改善を進め、生徒の多様な進路実現を図る。

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考									
<ul style="list-style-type: none"> <li>一人1台端末やタブレット等の教育ICT環境を活用した生徒一人ひとりに応じた学力の向上や創造性の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員のICT活用による授業力改善</li> </ul>	教務課 GIGA校内推進リーダー 各教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の学力に応じた学習指導が必要である。</li> <li>合理的配慮が必要な生徒への対応が必要である。</li> </ul>	<b>【成果指標】（教員）</b> 「個別最適な学び」につながるよう、端末機を使って学習指導を実践した結果、学力が伸びた。	「個別最適な学び」につながるよう、端末機を使って学習指導を実践した結果、学力が伸びたと評価した教員の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満	<table border="1"> <tr><td>①</td><td>伸びた</td></tr> <tr><td>②</td><td>概ね伸びた</td></tr> <tr><td>③</td><td>余り伸びていない</td></tr> <tr><td>④</td><td>全く伸びていない</td></tr> </table>	①	伸びた	②	概ね伸びた	③	余り伸びていない	④	全く伸びていない	教員対象調査 (7, 1月)
	①			伸びた											
②	概ね伸びた														
③	余り伸びていない														
④	全く伸びていない														
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒による「授業評価アンケート」の結果に基づき効果的なICT活用による授業力の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>端末機を使って学習した結果、学力が伸びた。</li> </ul>	<b>【成果指標】（生徒）</b>	端末機を使って学習した結果、学力が伸びたと実感している生徒の割合が、 A 80%以上 B 70%以上 C 70%未満	<table border="1"> <tr><td>①</td><td>伸びた</td></tr> <tr><td>②</td><td>概ね伸びた</td></tr> <tr><td>③</td><td>余り伸びていない</td></tr> <tr><td>④</td><td>全く伸びていない</td></tr> </table>	①	伸びた	②	概ね伸びた	③	余り伸びていない	④	全く伸びていない	生徒対象調査 (7, 1月)		
①	伸びた														
②	概ね伸びた														
③	余り伸びていない														
④	全く伸びていない														
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の思考力・判断力・表現力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>門高読書タイムや図書館講座の実施</li> </ul>	図書課	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書活動を通して生徒の思考力・表現力・判断力の下支えする力を養成する必要がある。</li> </ul>	<b>【成果指標】（生徒）</b> 「年間3冊以上の本を読んだ（読書タイムに読んだ本も含む）」	「年間3冊以上の本を読んだ」と答えた生徒の割合(①)が A 60%以上 B 50%以上 C 50%未満	<table border="1"> <tr><td>①</td><td>3冊以上読んだ</td></tr> <tr><td>②</td><td>2冊読んだ</td></tr> <tr><td>③</td><td>1冊読んだ</td></tr> <tr><td>④</td><td>1冊も読まなかった</td></tr> </table>	①	3冊以上読んだ	②	2冊読んだ	③	1冊読んだ	④	1冊も読まなかった	生徒対象調査 (7, 1月)
①	3冊以上読んだ														
②	2冊読んだ														
③	1冊読んだ														
④	1冊も読まなかった														
<ul style="list-style-type: none"> <li>「個別最適な学び」の充実による進路実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別授業</li> <li>朝補習</li> <li>放課後補習</li> <li>個別指導</li> </ul>	進路指導課	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な進路志望の生徒に応じた指導力の更なる充実が求められている。</li> <li>大学進学を目指す生徒への個に応じた学習指導力の向上が求められている。</li> </ul>	<b>【成果指標】（教員）</b> (1・2年生) 「全国模試の成績を伸ばすことができた」	「全国模試の成績を伸ばすことができた」生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	7月と1月ペネッセ総合学力テストの比較(全国偏差値)	対外模試結果								
				<b>【満足度指標】（生徒）</b> (3年生) 「卒業後の自分の進路について満足している」	「卒業後の自分の進路について満足している」と評価した生徒の割合(①+②)が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	<table border="1"> <tr><td>①</td><td>満足している</td></tr> <tr><td>②</td><td>だいたい満足している</td></tr> <tr><td>③</td><td>余り満足していない</td></tr> <tr><td>④</td><td>全く満足していない</td></tr> </table>	①	満足している	②	だいたい満足している	③	余り満足していない	④	全く満足していない	生徒対象調査 (7, 1月)
①	満足している														
②	だいたい満足している														
③	余り満足していない														
④	全く満足していない														
<ul style="list-style-type: none"> <li>進路意識の醸成と早期確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師によるキャリア教育講演会</li> <li>クリエイティブ人材育成事業</li> <li>企業人インタビューDVDの活用</li> <li>インターンシップ</li> <li>進路ガイダンス</li> <li>進路学習</li> <li>上級学校キャンパスツアー</li> <li>出張オープンキャンパス</li> <li>地元企業見学会</li> </ul>	進路指導課 各学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>働くことの意味や自分の適性を理解して、将来の進路設計を立てる力を養成している。</li> </ul>	<b>【成果指標】（生徒）</b> 「自分の適性を十分に把握し、将来の進路について話すことができた」	「自分の適性を十分に把握し、将来の進路について話すことができた」と評価した生徒の割合(①+②)が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	<table border="1"> <tr><td>①</td><td>できるようになった</td></tr> <tr><td>②</td><td>だいたいできるようになった</td></tr> <tr><td>③</td><td>ほとんどできない</td></tr> <tr><td>④</td><td>全くできない</td></tr> </table>	①	できるようになった	②	だいたいできるようになった	③	ほとんどできない	④	全くできない	生徒対象調査 (7, 1月)
①	できるようになった														
②	だいたいできるようになった														
③	ほとんどできない														
④	全くできない														

重点目標3 若手・中堅教職員の教科指導力や生徒理解力、ICT活用力、危機管理能力等の実践的な指導力向上に努める。

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	
・教員の授業力及び資質・能力の向上	・教員による「学校評価アンケート」の結果に基づく授業改善	教務課	・生徒の目線で自己の教科・生徒指導を振り返り、ICTを活用した授業力を高める工夫や改善に取り組む必要がある。	【成果指標】（生徒） 「生徒の思考力・表現力を高めるために発表型の授業を実施している（実施した）」結果、理解が深まったと答えた生徒が増えた。	「ICT機器により授業の理解度が深まった。」と答えた生徒の割合が  A 85%以上 B 75%以上 C 75%未満	① 理解が深まった	生徒対象調査 (7, 1月)
						② 理解がやや深まった	
						③ 理解が余り深まらなかった	
						④ 理解が全く深まらなかった	
・いじめの早期発見・早期対応	・いじめに関する校内研修 ・生徒観察, 生徒との人間関係づくりによる早期発見・早期対応 ・いじめ調査の実施	生徒指導課	・「いじめは起こりえるもの」の意識を教員が常に持ち、未然防止に尽力する。	【成果指標】（教員） 「研修会等によって、いじめ問題について理解を深め、予防的生徒指導に生かしている」	「研修会等によって、いじめ問題について理解を深め、予防的生徒指導に生かしている」と答えた教員の割合(①+②)が  A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① 生かしている	教員対象調査 (7, 1月)
						② 概ね生かしている	
						③ 余り生かしていない	
						④ 全く生かしていない	
・合理的な配慮が必要な生徒等、個々に応じた対応力の向上	・担任、教科担当者、SCによる個人面談の実施と情報共有	教育相談	・個々の生徒について情報共有し、必要に応じて合理的配慮を行っている。	【成果指標】（教員） 合理的配慮をはじめ、個々の生徒を理解し、対応することができる。	「合理的配慮をはじめ、個々の生徒を理解し、対応することができる。」と答えた教員の割合(①+②)が  A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① できる	教員対象調査 (7, 1月)
						② 概ねできる	
						③ 余りできない	
						④ 全くできない	
・新型コロナウイルス感染症予防対策・自然災害発生時の対応	・国(県)からの新型コロナウイルス感染症衛生管理ガイドラインを使った研修の実施 ・危機管理マニュアルの継続的な見直し	総務課 保健課	・部活動や寮、教室で新型コロナウイルス感染症対策について教職員が予防指導を実践できることが必要である。 ・地震等の自然災害発生時の対応の仕方を身につけており、実践できることが必要である。	【成果指標】（教員） 新型コロナウイルス感染症予防指導や自然災害等発生時の対応を実践することができる。	「新型コロナウイルス感染症予防指導や自然災害等発生時の対応を実践することができる。」と答えた教員の割合(①+②)が  A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① できる	教員対象調査 (7, 1月)
						② 概ねできる	
						③ 余りできない	
						④ 全くできない	
・スマートフォン等によるネットトラブルの未然防止	・スマートフォン等によるネットトラブル研修	生徒指導課	・指導を継続しながら生徒自身がその危険性を意識できるようにする。	【成果指標】（生徒） 校内でのスマートフォンや携帯電話によるインターネットトラブルに対する安全対策を実践している生徒の割合が高まっている。	スマートフォンや携帯電話によるインターネットトラブルに対する安全対策を「実践している」、「概ね実践している」と答えた生徒の割合が  A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① 実践している	生徒対象調査 (7, 1月)
						② 概ね実践している	
						③ 余り実践していない	
						④ 全く実践していない	
				【成果指標】（教員） 「私はスマートフォン等のネットトラブルの危険性を理解し、指導に生かしている」	「私はスマートフォン等のネットトラブルの危険性を理解し、指導に生かしている」と評価した教員の割合(①+②)が  A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	① 生かしている	教員対象調査 (7, 1月)
						② 概ね生かしている	
						③ 余り生かしていない	
						④ 全く生かしていない	

**重点目標4 目標を明確にして校務を遂行し、PDCAサイクルで取組の検証・見直しを行い、業務改善を進める。**

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>目標を明確にし、取組をPDCAサイクルで検証しながら、効率的・戦略的に分掌業務を遂行する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標を設定し、その目標を実現するための方策を立てる。また、その成果と課題を検証し、改善を図る。</li> </ul>	各課	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標を明確にし、PDCAサイクルで検証しながら、分掌業務を行う必要がある。</li> </ul>	<b>【成果指標】（教員）</b> PDCAサイクルによって改善点を明確にしなが業務を遂行することで、目標を達成することができた。	「PDCAサイクルによって改善点を明確にしなが業務を遂行することで、目標を達成することができた。」と答えた教員の割合（①+②）が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	① できた ② 概ねできた ③ 余りできていない ④ 全くできていない 教員対象調査 (7, 1月)
		各教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標を明確にし、PDCAサイクルで検証しながら、生徒の目線で授業改善を行う必要がある。</li> </ul>	<b>【成果指標】（生徒）</b> 教員がPDCAサイクルによる目標管理型の教科指導を行った結果、理解度が深まった。(7月と1月の授業評価)	「教員がPDCAサイクルによる目標管理型の教科指導を行った結果、理解度が深まった。」と答えた生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	① 理解が深まった ② 理解が概ね深まった ③ 理解が余り深まらなかった ④ 理解が全く深まらなかった 生徒対象調査 (7, 1月)

**重点目標5 ワークライフバランスやタイムマネジメントを意識しながらも、質の高い教育活動に取り組む。**

個別目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の働き方改革の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動年間計画、月別活動計画作成及び見直し</li> <li>計画的、協働的な校務の推進</li> <li>定時退庁日や最終退校時間を意識した校務の推進</li> </ul>	全教員	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の多忙化解消に向けた取組の実践が喫緊の課題である。</li> </ul>	<b>【成果指標】（教員）</b> 最終退校時間を意識した業務の推進に向けて、優先順位をつけて計画的かつ効率的に校務を行っている	「最終退校時間を意識した業務の推進に向けて、優先順位をつけて計画的かつ効率的に校務を行っている」と答えた教員の割合（①+②）が A 85%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満	① 行っている ② 概ね行っている ③ 余り行っていない ④ 全く行っていない 教員対象調査 (7, 1月)
<ul style="list-style-type: none"> <li>各種行事・諸活動への自主的参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種校内行事</li> <li>学校企画の諸活動</li> <li>学校祭等の生徒会活動</li> </ul>	生徒会 総務課	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの活動においても概ね意欲的に参加しているが、より自主的な活動になるよう指導し、良好な人間関係形成や自己有用感の向上につなげる。</li> </ul>	<b>【成果指標】（生徒）</b> 「各種校内行事に自主的に参加し、自己の役割を果たした」	「各種校内行事に自主的に参加し、自己の役割を果たした」と実感できた生徒の割合（①+②）が A 85%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	① 果たせた ② 概ね果たせた ③ 余り果たせていない ④ 全く果たせていない 生徒対象調査 (7, 1月)
<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動を通じた人間力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>競技力、表現力向上を目指した日々の取組</li> </ul>	生徒会 部顧問	<ul style="list-style-type: none"> <li>限られた時間を有効に活用し、競技力・表現力の質の向上を目指すことで個々の人間力を高める。</li> </ul>	<b>【成果指標】（生徒）</b> 「自主的に部活動に取り組むことで自分が成長した」	「自主的に部活動に取り組むことで自分が成長した」と感じた生徒の割合（①+②）が A 85%以上 B 75%以上 C 65%以上 D 65%未満	① できた ② だいたいできた ③ 余りできていない ④ 全くできていない 生徒対象調査 (7, 1月)